

緊急地震速報って？

緊急地震速報は、地震による強い揺れを事前（揺れる前）にお知らせするための情報です。



- 地震発生場所に近い地震計で地震波（P波、初期微動）をキャッチ
- 気象庁で、震源や規模、予想される揺れの強さ（震度）等を自動計算
- 地震による強い揺れ（S波、主要動）が始まる前に素早くお知らせ（緊急地震速報を発表）
- 家庭や工場、集客施設、交通機関などで、見聞きした一人一人が自らの身を守るためなどに活用

※緊急地震速報は、平成19年12月1日から地震動の警報と予報として位置づけられています

緊急地震速報は、どうやって聞くことができるの？

<p>緊急地震速報 テレビ・ラジオ</p>	<p>携帯電話・スマホ</p>	<p>防災行政無線</p>	<p>受信端末など</p>
---------------------------	-----------------	---------------	---------------

- テレビやラジオ※1を視聴している時に、報知音※2とともに放送されます
- 緊急地震速報を受信し、報知音※2で知らせる携帯電話があります
- 市町村※1の防災行政無線から報知音※2とともに伝えられます
- 受信端末※3などでは、気象庁が発表する警報や予報のほか、独自に個別地点の震度などを予想し、報知します

※1 準備の整った放送局や市町村(全国瞬時警報システム(J-ALERT)を利用)から放送が開始されています
 ※2 緊急地震速報専用の報知音があります。音を覚えて、その音を聞いたらとっさに身を守る行動をとれるようにしておきましょう
 ※3 緊急地震速報を受信し、音声報知や機器の制御を行うための装置

緊急地震速報の音は、どういう時に鳴るの？

- 発表の基準**
- 緊急地震速報は、地震により予想される震度が5弱を超えた時に発表され、テレビやラジオ、防災行政無線、携帯電話端末で報知音が鳴ります
 - 受信端末などでは、利用者が独自に設定した基準を、予想する震度を超えた時に報知音が鳴ります
- ご利用にあたって**
- ★余震が多く発生している時など緊急地震速報を適切に発表できないことがありますが、速報が発表される時にはどこかで地震が発生していますので、身を守る行動をとって強い揺れに備えて下さい
 - ★また、速報が発表されていなくても、地震の揺れを感じた時は身を守る行動をとって下さい
- | | |
|------------------------------|---|
| ●震源に近い地域では速報の発表が強い揺れに間に合いません | ●地震活動が活発なときなど、ほぼ同時に発生する複数の地震を区別できず、適切な内容で速報を発表できないことがあります |
| ●速報の発表が遅れたり発表できないことがあります | |
| ●予想する震度には±1程度の誤差を伴います | |

❖ ご注意ください! ❖

気象庁が、国民のみなさまに受信端末の設置を義務づけたり、直接設置に伺ったりすることはありません!

●緊急地震速報は、公益財団法人鉄道総合技術研究所と気象庁による共同技術開発と、独立行政法人防災科学技術研究所による技術開発の成果により可能となりました

【お問い合わせ先】

気象庁 地震火山部管理課
 〒100-8122 東京都千代田区大手町1丁目3番4号
 電話：(03)3212-8341(代表)
 FAX：(03)6689-2917(耳の不自由な方向け)
<http://www.jma.go.jp>

詳しくは

このリーフレットは、印刷用の紙へリサイクルできます。

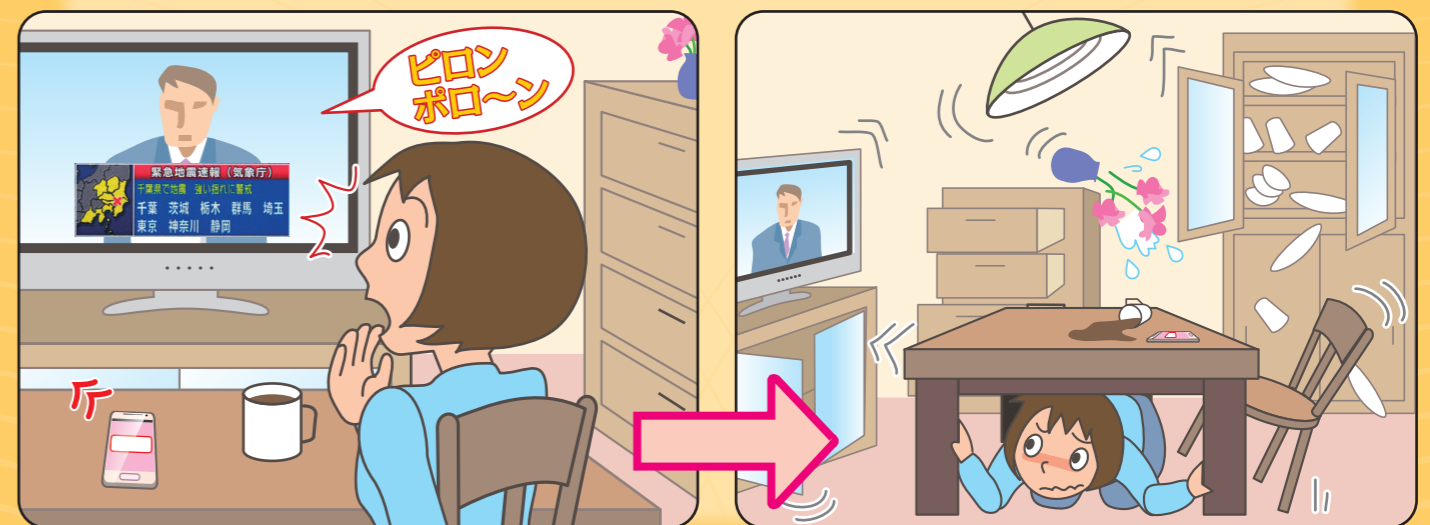
ぼくたちの
いのち
命をまもるおしらせだ

高知県 北岡七海さんの作品

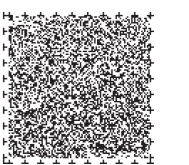
緊急地震速報

地震による強い揺れを事前にお知らせ

あわてず、まず身の安全を!!



国土交通省
気象庁



音声コード

緊急地震速報 利用の心得

まわりの人にも声をかけながら

緊急地震速報を見聞きしたら...

(地震の揺れを感じなくても)

あわてず、まず身の安全を!!

地震の揺れを感じたら...

(緊急地震速報がなくても)

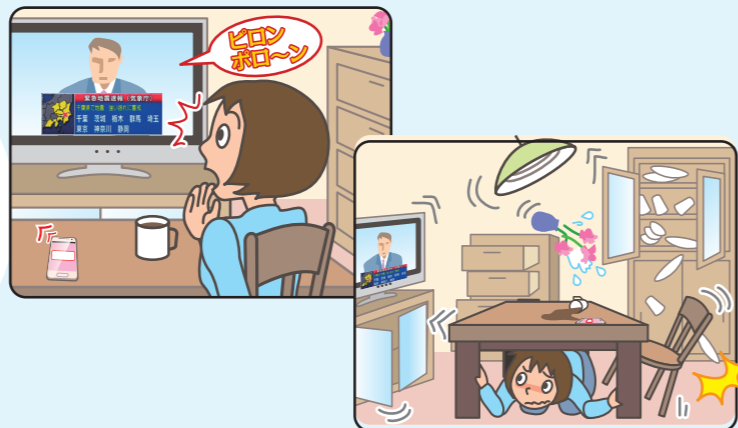
緊急地震速報を見聞きしてから強い揺れがくるまでの時間は数秒から数十秒しかありません

周囲の状況により具体的な行動は異なります。

日頃からいざというときの行動を考えておきましょう

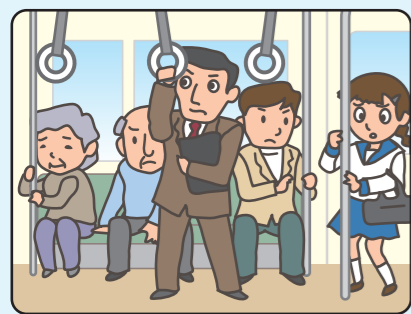
家庭では

- 頭を保護し、じょうぶな机の下など安全な場所に避難する
- あわてて外へ飛び出さない
- むりに火を消そうとしない



鉄道・バスでは

- つり革、手すりにしっかりつかまる



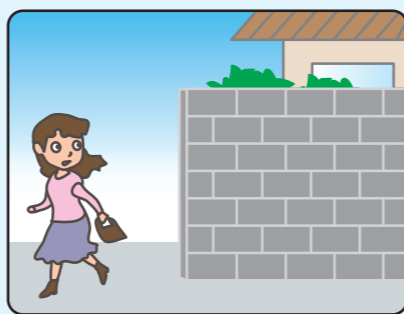
エレベーターでは

- 最寄りの階に停止させ すぐにおりる



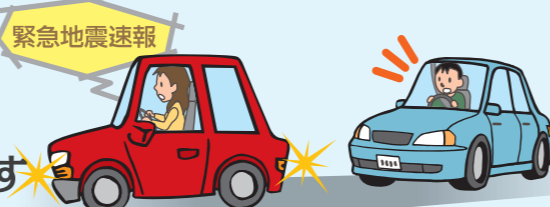
屋外(街)では

- スロッキ塀の倒壊に注意
- 看板や割れたガラスの落下に注意



自動車運転中は

- 急ブレーキはかけず、ゆるやかに速度をおとす
- ハザードランプを点灯しまわりの車に注意をうながす



上記のほか、訪れた施設等において緊急地震速報を見聞きした時は、身を守り、係員の指示に従ってください。

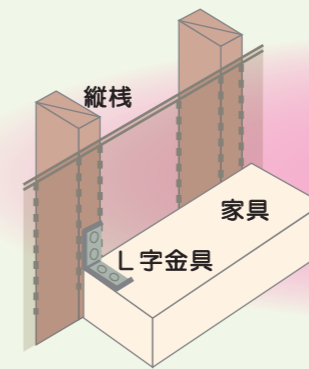
地震に備えましょう

強い揺れに見舞われると、家具の落下や、転倒、ガラスの破損などが起きることが想定されます。「緊急地震速報」を見聞きしても、これらの危険に対する備えができていなければ身の安全を守ることはできません。

日頃から地震への備えを心がけると共に、室内の安全な場所を把握しておきましょう。

◎ 日頃からの備えの例

- 住宅・建造物の耐震化
- 家具などの転倒・移動防止
- 備品の落下防止
- ガラスなどの飛散防止



壁にしっかりとした桟がある場合・・・
L型金物で、壁の桟と、家具の桟を直接固定する。



家具の転倒防止の例

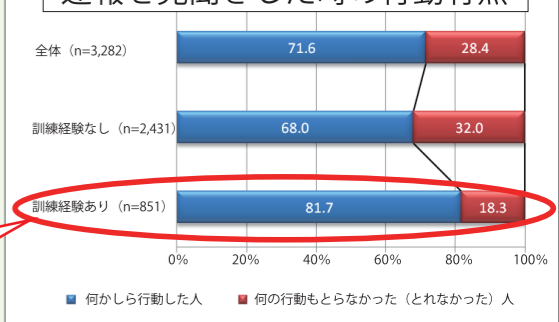
壁に桟が入っていない場合・・・
高さを調整しながら天井と家具を支える収納ユニットで固定する。

※詳細は総務省消防庁ホームページ「地震による家具の転倒を防ぐには」などをご参考としてください。
(<http://www.fdma.go.jp/html/life/kagu1.html>)

訓練して備えましょう

緊急地震速報を見聞きしてから強い揺れが来るまでの時間はごくわずかです。この短い間に、落ちてくるものや倒れてくるものを避け、あわてずに身を守るなど適切な行動をとるためには、日頃から訓練し、行動することに慣れておくことが重要です。

速報を見聞きした時の行動有無



アンケートの結果から、訓練の経験があるほうが「実際に行動できている」傾向がみられる

※図：気象庁「緊急地震速報の利活用状況等に関する調査」(平成24年10月31日～11月5日に調査)

◎ 具体的な訓練はどうしたらよいの？

訓練は簡単・短時間で実施することもできます。緊急地震速報を見聞きした時に、とっさに身の安全を確保する行動がとれるように、「練習」する機会だと思ってください。

まず、左のページも参考に、例えば自分がよく利用する場所(学校、職場など)でどうすれば身を守れるかイメージしておき、短い時間で本当にその行動がとれるのか、実際に行動して確認しましょう。

最近では、「シェイクアウト訓練」という2008年にアメリカで始まった地震防災訓練も注目されています。

これは、指定された日時に、地震から身を守るための3つの安全行動(①姿勢を低く、②頭を守って、③揺れが収まるまでじっとする)を各人がいる場所(職場、学校、外出先等)で約1分間行うというものです。

緊急地震速報の報知音を合図に、このような訓練もやってみましょう。



地震発生時の安全確保行動1-2-3 (Drop, Cover, and Hold On)
出典：効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議 (<http://www.shakeout.jp/>)